

- 10.一人のしもべ（ムハンマド）が、礼拝を捧げる時に。
- 11.あなたは、かれ（阻止する者）が、（正しい道）に導かれていると思うのか。
- 12.敬神を勧めているか、
- 13.（真理を）嘘であるとして背を向けたと思うのか。
- 14.かれは、アッラーが見ておられることを知らないのか。
- 15.断じてそうではない。もしかれが止まないならば、われは前髪でかれを捕えるであろう、
- 16.嘘付きで、罪深い前髪を。
- 17.そしてかれの（救助のために）一味を召集させなさい。
- 18.われは看守（の天使）を召集するであろう。
- 19.断じてそうあるべきではない。あなたはかれに従ってはならない。一途にサジダして（主に）近付け。〔サジダ〕

SURA 97.・いつ章〔アル・カドル〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.本当にわれは、・いつの夜に、この（クルアーン）を下した。
- 2.・いつの夜が何であるかを、あなたに理解させるものは何か。
- 3.・いつの夜は、千月よりも優る。
- 4.（その夜）天使たちと聖霊は、主の許しのもとに、凡ての神命を(斉?)して下る。
- 5.暁の明けるまで、（それは）平安である。

SURA 98.明証章〔アル・バイイナ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.啓典の民の中（真理を）拒否した者も多神教徒も、かれらに明証が来るまで、（道から）離れようとしなかった。
- 2.またアッラーからの使徒が、純聖な書巻を、読んで聞かせるまでは。
- 3.その中には、不滅の正しい記録（掟）がある。
- 4.啓典を授かっている者たちが、分派したのは、明証がかれらに来てから後のことであった。
- 5.かれらの命じられたことは、只アッラーに仕え、かれに信心の誠を尽し、純正に服従、帰依して、礼拝の務めを守り、定め喜捨をしなさいと、言うだけのことであった。これこそ真正の教えである。

6.啓典の民の中（真理を）拒否した者も、多神教徒も、地獄の火に（投げ込まれ）て、その中に永遠に住む。これらは、衆生の中最悪の者である。

7.だが信仰して善行に勤しむ者たち、これらは、衆生の中最善の者である。

8.かれらへの報奨は、主の御許の、川が下を流れる永遠の園である。永遠にその中に住むであろう。アッラーはかれらを喜ばれ、かれらもかれに満悦する。それは主を畏れる者（への報奨）である。

SURA 99.地震章〔アッ・ザルザラ〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.大地が激しく揺れ、
- 2.大地がその重荷を投げ出し、
- 3.「かれ（大地）に何事が起ったのか。」と人が言う時。
- 4.その日（大地は）凡ての消息を語ろう、
- 5.あなたの主が啓示されたことを。
- 6.その日、人びとは分別された集団となって（地中から）進・出て、かれらの行ったことが示されるであろう。
- 7.一微塵の重さでも、善を行った者はそれを見る。
- 8.一微塵の重さでも、悪を行った者はそれを見る。

SURA 100.進撃する馬章〔アル・アーディヤート〕

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において。

- 1.吐く息荒く進撃する（馬）において（誓う）。
- 2.蹄に火花を散らし、
- 3.暁に急襲して、
- 4.砂塵を巻き上げ、
- 5.（敵の）軍勢の真っ只中に突入する時。
- 6.本当に人間は、自分の主に対し恩知らずである。
- 7.それに就き、かれは誠に証人であり、
- 8.また富を愛することに熱中する。
- 9.かれは墓の中のものが発き出される時のことを知らないのか。